

## 2 - 10 日本海中部地震前後の体積ひずみ計の記録

### Sacks-Evertson Strainmeter Record before and after the 1983 Japan Sea Earthquake

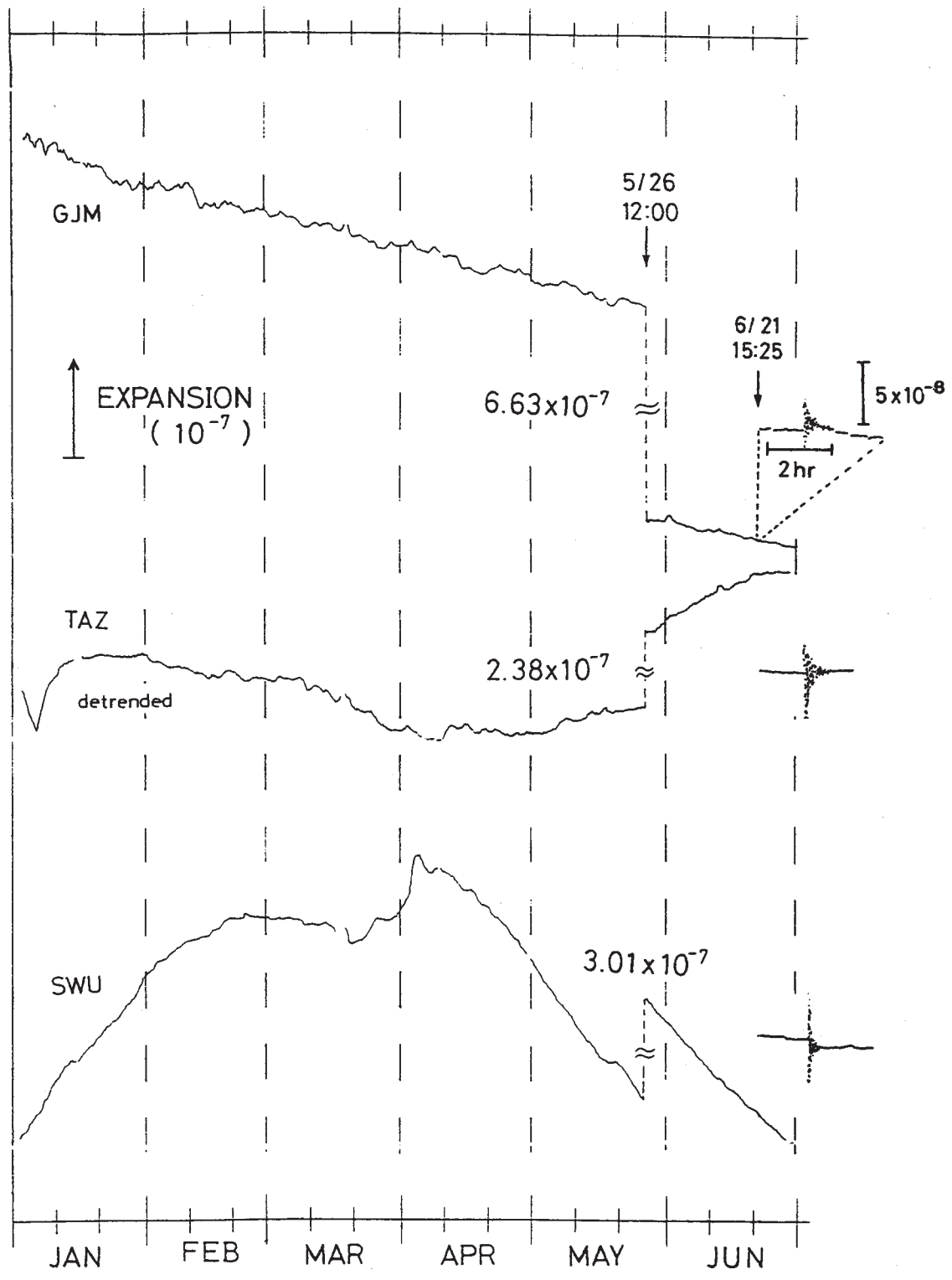
東北大学 理学部

カーネギー研究所

(米, ワシントン D. C. )

Faculty of Science, Tohoku University  
Carnegie Institution (Washington D.C.)

東北大学理学部は米国カーネギー研究所と共同して1982年10月末に総合観測線上の観測点である、五城目、田沢湖、沢内の3点にサックス・エバートソン型体積ひずみ計を設置した。今回、日本海中部地震の発生に伴い、3点とも明瞭な歪ステップを記録したので報告する。図の記録は毎時の読み取り値をプロットしたもので田沢湖の記録は約 $4 \times 10^{-8}$ /dayの縮み分を全体にわたって加えて平らに見えるようにしてある。記録上の短周期のゆらぎは男鹿観測点の気圧記録とほぼ対応がつく。



1983

第1図 五城目 (GJM), 田沢湖 (TAZ), 沢内 (SWU) における 1983 年 1 月 ~ 6 月の体積ひずみ計記録。毎時の読み取り値をプロット。日本海中部地震本震時のステップと最大余震波形も示してある

Strainmeter records at Gojōme (GJM), Tazawako (TAZ), and Sawauchi (SWU). Hourly values are plotted for the period of Jan. 1 to Jun. 30, 1983. Strain steps observed at 1983 Japan Sea Earthquake and its largest aftershock are also shown. Strainmeters (Sacks-Evertson Type) were installed in Oct. 1982 as a joint research between Carnegie Institution of Washington and Tohoku University.